

八月一日。

金澤第四高等學校主催にかかる北陸大會に參加す。夏季練習にて大なる自信を得た選手は、北陸の荒武者共を一蹴して、名譽ある月桂冠を得たいといふ希望をもつて、七月卅日、杉江先生に引率されて、金澤の地指して進軍しました。

戰跡

1 (山) 森 田 二
2 (桑) 竹 原 二
3 (川) 橋 本 二

敵は北陸の雄富山中學です。我軍大いに力戦奮闘しましたけれども武運拙なく遂に敗れました。

若し此日のボールが「赤M印」であつたなら（此の大會に使用されたものは僕等が今まで一度も用ひた事のない「二印」ボールでした。ですから其のパウンドがわからず、加ふるにカーブが甚だしく、試合に非常な困難を感じました。）そうして、脇坂君の病氣さへなかつたら、おめく彼富山中學には勝をゆづらな

かつたでせうに。

おゝ！ 親愛なる諸兄！ どうぞ此の時の戦士の胸中を、御察し下さつて、此の敗戦をお許し下さい。

秋季庭球例會

十月四日から三日間秋季例會を開催致しました。各年級の優勝者は次の諸君です。

一年	赤田、瀧上、	二年	本多、橋本
三年	水野、森、	四年	竹腰、岩崎
五年	岡村、吉岡、	同	圓城、渡部

最優勝者
二年級 本多、橋本、
五年級 吉岡、岡村、

十月十四日
大津にて戦ふ

大津西澤運動具店主催縣下中等學校庭球大會に參加しては、此の度こそはと言ふ固い決心をもつて、我部十名の戦士は、彦根驛頭歡呼の聲に送られて、出かけました。

のコートは、僕等に取つては、實に大切なものです。

ですから、僕等は、非常に注意して、あれを扱つて來ました。所が近頃大分損じて來ましたので修繕するか又は造り直したいのですが、何しろ少ない部費では、何ども仕方がありませんから、只もつと／＼大切に使つて、出来るだけ、損じない様に、するより他に道はありません。ですから、僕等は、今後もつと／＼注意して、ローラーも度々かけて大切に使ふつもりで居ります。それに僕等は諸君の中に、あの中を靴を、はいた儘、平氣で走り廻つて居られる方のあるのを時々見つけますが、大變遺憾に思つて居ます。あれも學校の大切なもの、一つです。ですから、どうぞ今後は、あの中へは、靴を、はいたまでは、絶対に這入らない様に、そーして、共にコートを愛する様に心掛けていたいと思ひます。

最後に後援會々員諸氏の御教導ご、校友會諸兄の熱誠なる應援と選手、理事一同に代りまして、深く感謝致します。

でも、それも今となつては、如何に悔んでも仕方のない事で、只來年を待つばかりです。來年は屹度、今年の不面目を回復して、諸君の御期待に報ひたい考へです。

次に諸君に、一つお願があります。と言ふのは、あ

徒步部

徒步部報

對八幡商業

六月廿三日、學藝大會の日、關西陸上競技界の雄鎮八幡商業に本年最初の遠征せしが、選手に病氣其の他種々の事情ありて充分實力を表して戦ふ事能はず、豎子の爲に徒に名を爲さしめ、彦中の光輝ある運動史をして汚したるは誠に遺憾千萬なり。以下當日の戰跡を記し深く諸君に謝す。(注意校名無き分ハ本校ナリ)

百ヤード

一着 福井(八商) タイム不明
二着 安居(八商)
三着 山田(八商)
得点 (八商) 6 (本校) 3

八百米
一着 中村(八商) 二分二十九秒五分ノ一
二着 西村(八商)

三着 藤本(八商) 5 (本校) 4
得点 (八商) 5 (八商) 4

一等 後藤(八商) 5 (本校) 4
二等 後藤(八商) 5 (八商)

三等 山本(八商) 5 (八商) 4

四百米
一着 川崎(八商) 五十九秒五分ノ一

二着 坂口(八商)
三着 吉川(八商) 8 (本校) 1

走巾飛
一等 後藤(八商) 十七尺五寸
二等 中村(八商)

三十三尺九寸

得点 (八商) 5 (八商) 4

得點 (八商) 5 (八商) 4

三等 安居(八商) 1 (八商) 8
得點 (八商) 1 (八商) 8
八百米リレー
一着 八商(福井、西田、川崎、中村) 二分四十七秒五分ノ一
二着 本校(安居、猪田、藤本、竹腰)
得點 (八商) 3 (本校) 0

合計 (八商) 73 (本校) 31

尙京津日報社主催第七回縣下陸上競技大會にも七月一日參加せしが降雨の爲に中止となり、七月八日に延期せられしかば、試験最中なれば棄權せり。諸君の期待に反きたるは誠に申譯なき次第なり。

ランニング例會之記

我が部は十月二十七日、徒步部創立以來最初の例會を舉行しました。出場者百餘名あり、諸先生も亦多數参加せられて頗る盛大を極めました。競技種目は八百メリレー(但し先生は四百米リレー)で成績は左の通り。

第一回 先生組(四百米リレー)
一着 体操科(眞野、本多、松永、室谷)一分八秒

三等 宮内(八商) 8 (本校) 1
得點 (八商) 8 (本校) 1
走高飛
一等 西田(八商) 五呎
二等 中村(八商)
三等 橋(八商) 8 (本校) 1
得點 (八商) 8 (本校) 1
二百米
一着 西田(八商) 二十六秒五分ノ三
二着 安居(八商)
三着 山田(八商)
得點 (八商) 6 (本校) 3
一着 宮内(八商) 五分三十九秒
二着 岩崎(八商)
三着 吉川(八商)
得點 (八商) 6 (八商) 3
圆盤投
一等 後藤(八商) 七十五尺
二等 水谷(八商)

二着 數學科（笛野、小島、長谷部、中川）
 三着 英語科（古市、森脇、野間、花月）
 四着 國漢科（世森、池田、藤下、足立）

体操科は職掌柄一着となられたのも當然だが其の他の科では中川先生、花月先生、足立先生は異采を放つて居られた。

第二回（以後八百米リレー生徒組）

一着 河合組（岩増、林、河合、岩崎）二分十秒五分ノ二
 二着 小梶組
 三着 中村組

第三回

一着 西澤組（西澤、岡崎、瀧上、橋本）二分六秒
 二着 西川組
 三着 辻組

第四回

一着 川端組（西川、橋本、小川、川端）二分十二秒券ノ一
 二着 中川組
 三着 宮田組
 四着 吉川組

第五回

一着 脇阪組
 二着 脇阪組
 三着 的場組

これで第一豫選は終つて第二豫選に入つた。
 第拾一回

一着 竹原組（藤本、古澤、竹原、吉岡）三分九秒券ノ四
 二着 村岸組
 三着 河合組

河合組が折角一着に居りながらバドンの授受が悪くてバドンを落して三着になつた。大いにバドンの授受は注意を要する。

第拾二回

一着 圓城組（圓城、辻、村岸、小島）三分三秒五分ノ四
 二着 西澤組
 三着 安居組
 決勝に参加するものは圓城組、と竹原組と決定した。決勝の前に四五年の徒步部の選手の競走を行つた。
 第拾三回 選手リレー
 一着 五年（渡邊、吉川、西村、宮内）一分五十九秒
 二着 四年（竹腰、藤本、岩崎、猪田）
 スタートから五年早く敵を壓する許りで約三十米の差

一着 竹原組（藤本、古澤、竹原、吉岡）二分十秒
 二着 前川組
 三着 坂居組

一着 圓城組（圓城、小島、辻、村岸）二分十一秒五分ノ二
 二着 古池組
 三着 吉岡組

第七回

一着 村岸組（村岸、伊藤、古池、竹岡）三分十四秒券ノ一
 二着 布施組
 三着 村岸組

第八回

一着 關谷組（山口、橋本、山田、關谷）三分十一秒券ノ一
 二着 松尾組
 三着 村岸組

第九回

一着 織田組（奥村、西濱、織田、大中）二分十二秒
 二着 富田組
 三着 脇阪組

第十回

一着 安居組（岩増、服部、室谷、安居）三分三秒券ノ一

でゴールに入つた。

第拾四回 決勝リレー

一着 圓城組（辻、圓城、村岸、小嶋）三分六秒五分ノ二
 二着 竹原組（藤本、古澤、竹原、吉岡）

遂に當日の優勝は圓城組の手に歸した。元氣盛んに最も勇敢によく奮闘せられた諸君に對して、徒步部は感謝します。

校友會各部役員

會長	安河内先生
副會長	伊藤先生
學藝部 部長	山本先生
理事	大崎彌太郎
	鹿谷義雄
	内藤光三
	堀辰之助
	野瀬光三
	川嶋之助
	足立先生
	足立先生

武術部 理事長 正北角田清八
中池二中羽種筒木川秋真大名寺山奥村中村正野敏次
村田橋根村井添山村野谷烟橋正太
辰先五正廣誠清辰桂英先義榮
三生男男造一彦藏藏三生雄一郎藏夫郎三郎

水上部 理事長

中池二中羽種筒木川秋真大名寺山奥村中村正野敏次
村田橋根村井添山村野谷烟橋正太
辰先五正廣誠清辰桂英先義榮
三生男男造一彦藏藏三生雄一郎藏夫郎三郎

角力部 部長

梅青望北澤西猪竹宮橋室川西辻伊古藤松水宮
村山田村井澤田腰内谷崎澤吹池永政治
隆正金禎浩先孝三明先一五富慈邦源先
弘郎郎郎三生三昇郎德生郎郎三徹郎生郎七

學級監

第一學年	同	第二學年	同	第三學年	同	第四學年	同	第五學年	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
丙組	甲組	乙組	丙組	甲組	乙組	丙組	甲組	乙組	甲組
二十五									

長及小野丹寺中藤佐小足若上西山本勝太
谷川田間羽尾川下竹島立山松澤嘉元次
部源松喜次太二五和宗貞文熊芳次
七郎郎郎律郎誠一平雄重郎郎郎

小林重森利一
川信英一
藏信郎

野球部 部長 理事長

高草蓮井前關東池大藤的
古北笠陋布竹市原居間上保太
森川谷川西堂林田潤兵末
小平善正太和郁義和善太
井平善太和郁義和善太
之彦郎平生郎雄三郎藏雄生三渡庫吉治治益

て終業式を舉行す。

○二十二日、春季皇靈祭。

○二十六日、入學試験、受験願出人數、二八四人。

出席者二六九人、午前八時より試験開始。

○二十七日、入學試験

○二十八日、入學試験

○二十九日、午前十一時入學試験合格者發表。

○三十日、轉入學生の編入試験舉行。

四月

○九日、午前八時十分始業式、第四學年以下の學力

操行優等賞及び精勤賞授與す。式後教室にて正副級

長及び校友會理事の選舉を行ふ。午後零時半より新

入生の入學式を行ふ。新入生九八名出席。

○十日、第一限新舊生徒の對面式を行ふ。

○十一日、學年試験欠席者の追試験及び第二學年へ

の編入試験を行ふ。

○十二日、正副級長の任命式を行ふ。

○十四日、午前八時出發ウツ川堤へ野外遠足を行ふ

○二十八日、第三限若林先生の告別式を行ふ。

五月

○一日、野間先生の就任式。

○四日、矢野督學官來校。

○六日、第三限揚子江横斷者水泳家西村節氏の講話あり。

○八日、北白川宮御葬儀に付訓話あり。

○九日、午後一時より公會堂に於て野上京大教授其他特許局の技師の講話あるに付有志生徒の聽講をする。

○十三日、第一學期小試験開始。

○十六日、第一學期小試験終了。

○十八日、吉岡先生の就任式を行ふ。

○十九日、榎原先生の紹介式を行ふ。

○二十三日、第二限より學藝會を開き、午後零時五

分終了、午後零時半より松浦三郎氏の講談あり。

○二十六日、第五學年英語課外（榎原氏）本日より開始。

○二十七日、縣下中等學長來校。

七月

○三日、同窓會常務幹事會を午後五時より開く。

○七日、第一學期試験開始。

○十二日、學期試験終了。

○十三日、第三學年以上學年試験終了。

○十四日、本日四十分授業開始。校歌練習。

○十六日、水泳開始。

○二十五日、夏季休暇開始。

八月

○三十一日、夏季休暇終了。

九月

○一日、午前八時十分より第二學期始業式舉行。若山、長谷部、大中三先生の紹介式を行ふ。第三限より大掃除を行ふ。

○五日、中川先生の紹介式を行ふ。

○十七日、攝政宮殿下の詔勅奉讀及山本首相の告諭朗讀式を行ふ。東林先生の東京地方震災視察談あり

○二十二日、午前十一時より招魂社に參拜。

○一日、中島先生の告別式を行ふ。

○二日、花月先生の紹介式を行ふ。

○四日、庭球部例會を行ふ。

○十一日、庭球例會續き試合を行ふ。

○一日、午前八時創立紀念式舉行。式後招魂社に參拜。其後長曾根に於て水上運動會を行ふ。波荒きた

めに第三回を終りて中止す。

○二日、午前八時集合、直ちに長曾根に向つて出發午後五時半終了。

○三日、慰勞休暇。

○九日、越智先生の就任式を行ふ。

○十日、高坂先生の告別式を行ふ。

○二十一日、小柳先生の紹介式を行ふ。第四學年旅

行隊大和大阪へ午前七時四十二分出發。

○廿五日、第三學年旅行隊出發（伊勢鳥羽方面）

○二十六日、第二學年生午前六時二十一分發列車にて桃山宇治京都方面へ出發。午後六時五十八分歸校

午前八時半第一學年旅行隊出發。第三學年旅行隊午後六時三分歸校。

○二十八日、第五學年旅行者休業。

六月

- 十二日、野球部例會を始む。
- 十八日、足立先生の紹介式を行ふ。野球部例會の續き試合を行ふ。
- 二十日、學藝部大會を行ふ。
- 二十七日、徒步部例會を行ふ。膳所中學辯論大會へ寺尾先生引率の下に大崎、野瀬出席、第二學期小試験時間割報告す。
- 二十九日、羅災のため轉入學希望者の編入試験を行ふ。
- 三十日、午前八時十分より天長節拜賀式を行ふ。
- 十一月
- 三日、第二學期小試験を行ふ。
- 七日、第二學期小試験終了。
- 十日、午後一時より公會堂に於て井伊直弼公誕辰祭に各組正副級長參列す。
- 十三日、午前八時十分より行幸啓記念式舉行。並びに國民精神振作の詔書奉讀式を行ふ。式後武道大會を行ふ。
- 十九日、第十六師團機動演習に參加のため第四五學年前十一時本校を出發。

- 二十日、第三學年以下の生徒午前三時本校に集合同二十分出發、鞍掛山に登り機動演習の見學をなす。
- 二十一日、慰勞休暇。
- 二十二日、藤田校醫の送別式を行ふ。
- 二十三日、新嘗祭にて休日。
- 二十七日、本校職員一同彦女職員との庭球試合を本校校庭に於て行ふ。
- 二十四日、彦根停車場にて藤田校醫渡歐出發を見送る。
- 二十九日、松永先生令室死去の旨來電あり。生徒一同哀悼の意を表す。

十二月

- 六日、第二學期試験時間割發表。
- 七日、第三學年生の父兄會を行ふ。
- 八日、第四學年生の父兄會を行ふ。
- 十九日、第二學期試験終了。第二學期終業式を行ふ。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

會計報告

大正十一年度
收入決算書

科 目	豫算額	決算額	差額	事項
前 年 度 練 越	一、二九、二三、一、二九、二三、〇			
新 入 會 費	一四三、〇〇	一四六、〇〇	三、〇〇	
預 金 利 子	四、八九	八、四一〇	三六、五三〇	
職 員 酒 金	一八三、〇〇	一七九、四〇〇(減四、五六〇)	一四、五六〇	
徒 醉 金	三、七七二、〇〇	三、九三六〇〇	一七一、六〇〇	
計	五、六八、〇〇	五、四六、五七二	二〇八、五七〇	

大正十一年度

支出決算書

科 目	豫算額	決算額	差額	事項
短艇改造費積立	一七六、四五〇	七六、四五〇	〇	○へ繰り越年度
同 本 年 度 積 立	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	〇	
同 同	一四六、〇〇〇	一四六、〇〇〇	〇	

計 雜 錄 五、二六、三二、五、四六、〇〇〇 二〇、〇〇一

大正十二年 度
收 入 豫 算 額

科 目	豫 算 額	本 年 度 積 立
前 年 度 繰 越	一、三五、〇三	内 短 舟 積 立
新 入 會 費	一〇四、〇〇	野 球 防 禦 費
預 金 利 子	八、四〇	現 在 數 ニ ヨル
職 員 酒 金	一七、四〇	前 年 度 實 額 ニ ヨル
生 徒 酒 金	三、八六、〇〇	同
計	五、四九、八八二	五百八十人平均

大正十二年 度

支 出 豫 算 書

科 目	豫 算 額	事 項
短 舟 費 積 立	九六、四五	
同 本 年 度 積 立	二〇〇、〇〇	

計	豫	雜	臨	道	地	陸	水	遠	徒	角	庭	野	武	雜	學	記	同	野
	時	備	上	上	上	足	步	力	球	球	術	上	誌	藝	念	文	庫	防禦費
費	費	費	費	費	費	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	部	九〇、〇〇	
五、四九、八八二	一六、四三二	一〇、〇〇	五〇、〇〇	五〇、〇〇	五〇、〇〇	八〇、〇〇	一〇〇、〇〇	三〇、〇〇										
																	九〇、〇〇	
																	九〇、〇〇	
																	九〇、〇〇	
																	九〇、〇〇	
																	九〇、〇〇	

編輯を終らんとして

我が部のために大いに努力せられ且氣焰をあげられた杉山先生を失つたので事毎にまごついた。今やつと本誌を編輯したがさてつとも自信がない、杉山先生が嘗て持たれた抱負も未だめえざるうちに疎り去つたのではなからうかと恐縮してゐる。又元來本誌に載すべくして載せになかつたものも多々あらうと思ふ多謝多謝。最後に猶必要なるを認めて本誌投稿規定を載せておく。

一、本會所定の用紙に楷書にて認め且平假名を用ふべし。

一、句讀を附し、猥りに改行すべからず。

一、各章段の最初及び句讀點下には必ず一字を明くべし。

一、年級と姓名とを明記すべし。匿名を許さず。

一、論政治に涉り他人の名譽を毀損するものは採らず。

一、締切期限確守すべし。



滋賀縣立彦根中學校

大正十三年三月一日發行

明治二十七年五月三十日內務省認可
大正十三年二月廿五日印刷

大正十三年三月一日發行

(非賣品)

發行所 滋賀縣立彦根中學校 友會

代表者

滋賀縣立彦根中學校內

彦根市

熊

雄

斯

康

印刷者 滋賀縣大上郡彦根町池洲

印刷所 同縣 同郡 同町

印刷所 村下活版所

